



赤や黄色に美しく色づいた桜の木の葉。落葉の一枚、一枚、そのさまざまな色模様にとられ、学園までの桜並木の道のりもついつい歩みが遅くなるこの季節。学園の朝は生徒たちによる落葉の掃き掃除で始まります。もうすぐ冬の到来です。

\*\*\*\*\*

## \* マルティン祭 \*

11月13日(金)、1年生と2年生の子どもたちはいつも通りに下校したあと、暗くなるのを待って再び夕方から保護者や兄弟姉妹と一緒に登校しマルティン祭を楽しみました。手作りのランタンに火を灯して校庭を歌いながら歩くかわいい姿を教室やオイリュトミー室の窓から保護者の皆さんはどのような思いでご覧になったでしょう。



毎年1,2年生の担任はどんなランタンを作ろうかと考えます。私は夏休み中から数学の教員研修を受け持って下さっている足立久美子先生に「11月のマルティン祭には折り畳めるランタンが作りたいので折り紙数学でできないか考えてくださいますか?」とお願いしました。先生はご多忙な中、試作品をいくつも作ってくださりやっと今回の形になりました。線を引いたり折ったりするのは保護者会で練習してから自宅での宿題として保護者をお願いしました。子どもたちがそれに彩色し組み立て、最後の仕上げは私がしました。みんなの合作のランタンはオイリュトミー室で「星の銀貨」のお話を聞いた後、火を入れてもらい、校庭の闇の中で非常に鮮やかに美しく輝いていました。



光を入れた今年のランタン

横浜シュタイナー学園では開校して3年目からマルティン祭を祝っています。聖マルティンはキリスト教の聖人の一人で2年生のテーマである聖人伝に取り上げられることがよくある聖人です。紀元300年代、ローマ帝国の属国に実在した人物でフランスやドイツの守護聖人です。ローマ軍の兵士として戦いに参加する中、ガリア地方(フランス)のアミアンの町の門の近くにいた物乞いに自分のマントを切って半分与えたという話が有名です。その晩彼の夢の中に現れたのは彼からマントを分けてもらった物乞いの姿をしたイエス・キリストでした。彼はその後洗礼を受け修道士として貧しい人々や病気の人々を救う活動に生涯を捧げました。

聖マルティンの日は11月11日でマルティンの亡くなった日と言われていますが、埋葬された日や誕生日とも言われているそうです。ヨーロッパでは収穫祭の時期でもあり農繁期が終わり冬の到来を告げる日として、焚き火を囲んで収穫を喜んだりランタンを持った子どもたちが近所を回ったりします。

私たちは宗教に関係なく人と物を分けることの大切さや、日が短くなった冬の初めに手作りのランタンで夜の闇と光の暖かさを低学年の子どもたちに体験してほしいという目的で行っています。

各教室に戻ってからは聖マルティンのお話を聴き、保護者が焼いてくれた丸パンを二人で半分ずつに分けていただきました。その後マルティンの歌を歌いながら貧しい男にマントを分けてあげるライゲンを皆さんに見てもらってマルティン祭は終わりました。人に物を分け与えることで、より豊かなものを心は受け取れることを知った子どもたちは、一年で最も暗くなる時期に最も明るい光である『個』を人類にもたらした存在が誕生することを待つアドヴェント(待降節)を次は体験します。

(1年生担任 神田昌実)

## \*ユネスコ/\*ESD 交流セミナー 2015 に参加してきました\*

\*ESD=Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育

ユネスコ/ESD 交流セミナー 2015 が9月19日(土)/20(日)の1泊2日東海大学湘南キャンパスで行われました。8月1日(土)第1回ユネスコスクール神奈川県大会に参加し、ユネスコESD活動へのシュタイナー学校の関わりに何か考えさせられるもの感じ、今回も参加させていただくことにしました。当学園からはユネスコグループ担当の英語専科の内村先生が参加しました。

シュタイナー教育ではなじみのある小貴大輔さんが教鞭をとっている東海大学教養学部は本年度より、ユネスコスクールのパートナーとしてユネスコスクールの活動を支援する大学のネットワーク ASPUnivNet (Interuniversity Network Supporting the UNESCO Associated School Project Network) に加盟し、今回その活動の一環として交流セミナーを主催しました。今回のセミナーでは、校種、年齢、文化などの異なる学校が、それぞれのESD活動や学校の特色を紹介し合い、学校、教員、ユース間(高校生以上)の交流を深めることを目的とし、東海大学教養学部の教員、学生が活動の中心となって進められました。参加校は以下の通りです。

現ユネスコスクールとしての参加

- |                 |         |     |
|-----------------|---------|-----|
| ・有馬高校 (海老名市)    | 教員      | 高校生 |
| ・永田台小学校 (横浜市南区) | 教員      |     |
| ・横浜シュタイナー学園     | 教員      |     |
|                 | (内村/横山) |     |
| ・玉川学園ユネスコクラブ    | 教員      | 学生  |
| ・湘南学園 (藤沢市)     | 教員      | 高校生 |

ユネスコスクールではないけれども今回参加

- |                    |     |     |
|--------------------|-----|-----|
| ・小田原高校             | 教員  | 高校生 |
| ・シュタイナー学園 (相模原市緑区) | 高校生 |     |
| ・東海大学              | 教員  | 学生  |
| ・横須賀総合高校           | 教員  | 高校生 |

およそ教員20名、学生40名の参加となりました。当初は茨城常総市のオブサオンというブラジル学校の参加も予定されていましたが、関東・東北豪雨による洪水の被害の影響で参加が見合わせになりました。内村先生や前回の県大会でお目にかかった先生方、また藤野(現：相模原市緑区)のシュタイナー学園の12年生(娘のクラスメイト)からも2名参加があり、知っている顔があって少しほっとしての参加となりました。

19日午後交流会が始まりました。自分が呼んでほしい名前が書かれた名札を首から下げ、まずは、お互いを知り合うゲーム。東海大学の学生がリードしてくれます。6つのグループに分かれ円になって名前を覚えるゲームです。自己紹介する時に「わたしは、Aです。」次の人は「わたしはAさんのとなりのBです。」その次の人は「わたしはAさんのとなりのBさんのとなりのCです。」と言っていくゲーム。ひとグループ約10人。なんとか覚えられました。次は隣のグループと合体して同じゲーム、3つのグループができました。さてその次はなんと60名がひとつの輪になって同じゲームを行いました。

内村先生は「うっちー」と呼んでもらっていました。わたしは「よし」あるいは「よっしー」。ちなみに玉川大学の小林亮教授は「まこちゃん」。先生も学生も下の名前でのネーミングが決まりフラットな会の始まりとなりました。こんなに集中したのは久しぶり?で疲れましたが、たくさんの人の名前を覚える良い機会となりました。(しかしゲームが終わり、輪がとかれるとすぐにわからなくなってしまったり、次の日になって服装や髪形が変わってしまうとうお手上げなわたしでした。)



英語の模擬授業のひとつ



ユネスコのイメージを絵や言葉で表すと...

その後は小林先生によるユネスコ/ESDについての説明、小林先生は話す時間が予定より短くなってしまったにもかかわらず、倍速での説明で、ここはゆずれないと熱演。それがおかしかった。楽しい方で人を引き付ける魅力があるなあと感じました。講演が終わり、最後に時間が押しているのも承知で、小林先生グループを3つに分け、「ユネスコのイメージを模造紙に書いてみましょう。時間は5分。」!!! しかし短い時間で、すばらしい文字や絵が模造紙にどんどん描かれていきました。一人一人が協力してわたしたちの住む地球をささえるといった内容が各グループから発表されました。高校生たちの前に進んでいく力に感動し、未来に光を感じました。

小林教授のプログラムのあとは、参加校より活動紹介がありました。

一番手は横浜シュタイナー学園。内村先生による英語の模擬授業。「もしわたしが子どもじゃなかったら××になるのに…」××は職業で、…はその職業を詩とともに動作で表現するという内容。7名の実演参加者を募ったところ、さっと7名がそろい、楽しく笑いのひと時でした。

その後は、教員から日本教職員韓国訪問プログラムの報告、生徒からは古着をアフリカへ送っている活動の報告とユネスコ主催で宮城の被災地を訪問した報告がなされました。被災地の様子が報道内容と実際に目にするのでは大きな違いがあると語っていたのが印象的でした。それぞれの報告により思いや考えが参加者に共有された時間になりました。

18時から大学内の木々の間にあるログハウスで夕食。屋外ではバーベキューも行われ、さながらキャンプ場に来たようでした。高校生、学生や教員の良い交流の時間となりました。シュタイナー教育に興味をもたれている先生方、とくに小学校の先生とわたしたちの教育について話すことができました。

夕食が一段落し、永田台小学校の先生方がESDについての楽しい劇ビデオを上映、そして、今回参加予定だったブラジル学校でボランティアをしている、ブラジル人大学院生から被災地の状況報告がありました。ポルトガル語を用いるブラジル人の方々に住む地区では、日本語による避難勧告が伝わらなかったという報告がなされました。その後は学生と教員に分かれて就寝。

翌日は7時半集合、学生たちが集合時刻をやや過ぎてゆるりゆるりとやってきました。22時ごろ寝た人もいたけれど、4時頃まで起きていた人もいたとか。これも良い交流の機会となったことでしょうか。眠い目をこすりながら、草木染のプログラム。朝食前は散歩しながら染色材料をキャンパス内で集めました。そして朝食後に染めの作業を行いました。染め終わり参加者全員の小さなハンカチが風に揺れている光景はなんとこの交流会での一体感をかんじました。

その後は昼食をはさんで最後のプログラム。最初に現在の学校の良いところ、悪いところを考えてみたあと「100年後の学校」について考えてみました。ここでは教員と学生は別々のグループで取り組みました。各グループで話し合った内容を模造紙にまとめ「100年後の学校」の発表を行いました。太陽光パネルを設置し学校で消費する電力はそれでまかなう、学校のIT化などさまざまな意見が出されました。

その後は、一人一人2日間の感想を述べ、全てのプログラムが終了し閉会となりました。全員で記念撮影をしたあと、高校生たちは別れを惜しんで語らっていました。

2日間のこの交流会は、8月の教員だけの集まりと違い、高校生・大学生が主体で大変生き生きとしたものとなりました。彼らの未来へ向かって進んでいく姿勢から力をもらうことができたと感じています。

シュタイナー学校とユネスコ、公教育とのかかわりをぼんやりと考える機会が与えられたわたしにとって、まずはこうして交流することそのものに意味があるのではないかと感じられたセミナーでした。自分のなかでは少し前進したような気がしています。対象が高校生以上なので当学園の生徒は参加できませんが、高校生になったら是非参加するとよい旨を9年生には伝えようと思い2日間を終えました。大変貴重な経験ができたことに感謝したいと思います。



すっかり仲良くなった参加者たち

(9年生担任 横山義宏)

## \* 部活動紹介 \*

2014年度より、7～9年生は授業後に部活動をしています。

2012年度に保護者が中心となって7年生以上の生徒の課外活動の場を作ろうと呼びかけてくださり、自主活動として「体操」と「書道」が始まりました。それを引き継ぐ形で、2013年度末に当時の6～8年生の担任と生徒が話し合いを重ねました。5名以上の部員がいること、指導者を見つけることが出来るものという条件を満たすことの出来た「体操」「書道」「野球」「料理」「数学」の5つの部活動が2014年度4月に始まりました。年度末には活動報告会を開き、その後、翌年度の活動について6～8年生が話し合いを持ちました。

そうして今年度は上記5つに加え「合唱」「ボードゲーム」の7つの部活に分かれて活動しています。生徒は2つの部活に所属できます。場合によっては3つまで所属することが可能です。もちろん、1つだけ、あるいはどこにも所属しないという選択も可能です。活動は週1回が基本ですが講師を招くのは月2回となっていますので、月2回の活動がほとんどです。活動の内容によっては活動日が増えることもあります。

簡単に各部の活動内容を報告いたします。

「体操」は、体育専科教員の韓先生に指導を受けています。日ごろの体育で取り組んでいるマット運動の技をさらに磨いたり、難しい技に挑戦したりしています。

「書道」は、書道専科の吉野先生に指導を受けています。6年生までの取り組みを基礎として、様々な素材・大きさの紙や筆を使って、さらに自由な表現を目指して活動しています。

「数学」はシュタイナー学校の高等部や大学で教えていらっしゃる足立先生を迎えて、学年を超えたより専門的な内容に踏み込んだ活動をしています。目で見える数学・楽しむ数学といったところでしょうか。

「料理」は料理の得意なお母様方のサポートを頂きながら、計画的に月1回の調理実習をしています。実習日には出来上がったものを教員会の軽食として格安で提供してくれます。なかなかの腕前なので、教員も実習日を楽しみにしています。

「野球」は休日に練習場がとれた時はお父さんたちを中心にOBメンバーにもサポートしてもらいながら練習をし、平日は近くの公園で自分たちで練習メニューを決めて熱心に練習しています。

「合唱」はメンバーは7年生のみですが、伏見先生に助けていただきながら定期的に活動しています。

「ボードゲーム」はOB保護者が毎回、お薦めゲームを持参して来て下さり、ゲームの奥深さを体験しています。

今年度も2月末ごろに報告会を開く予定です。その後来年度活動に加わる6年生を含めて来年度の部活動について話し合う予定です。まだまだ発展途上の仕組みですので、よりよい形で活動できるよう話し合いが続くと思いますが、一人ひとりの生徒が主体的に関わっていく活動として今後も皆で考えていきたいとおもいます。

(8年生担任 黒沼亜矢)

# インフォメーション

## 親子でむかえる「アドヴェントのつどい」

— 暗闇の世界に生まれる小さな光 — アドヴェントを体験できる1日です。  
美しく飾られた学園を是非お楽しみください。

日時：11月29日（日）10：00～14：30

会場：横浜シュタイナー学園 霧が丘校舎

\* クリスマスのお話・ライアー演奏・人形劇・ワークショップ・バザー・カフェなど \*

【同時開催】学園紹介 in 十日市場校舎 12：00～15：00  
～6～9年生の学び舎である十日市場校舎を公開します～

## 二学期月例祭

子どもたちの学びの成果をご覧ください。

12月19日（土）10：20～12：00

（開場 10：10）

場所：旧若葉台西中学校

※要申込。詳細はHPをご確認ください。

## 茶話会／校内見学会

学園の雰囲気を肌で感じていただける  
この機会にどうぞお訪ねください。

<茶話会>

日時：2016年2月19日（金）10：00～12：00

<校内見学会>

教室など校舎内を教員・事務局員がご案内

日時：2016年1月24日（日）10：00～12：00

2016年2月19日（金）10：00～12：00

参加費：無料 お子様連れも可です。

場所：霧が丘校舎

※ お子様の上履きはご持参ください。

## 入学説明会（二次）

参加費無料

A、B両方ご参加の方に

入学願書（1,000円）を配布いたします。

A) 12/5（土）教育内容について

B) 12/12（土）保護者の関わりについて

※要申込。詳細はHPをご確認ください。

## 連続講座

### 「シュタイナーの人間観・宇宙観」

日時：第1回～5回は終了しました。

第6回（最終回） 12月13日（日）

14：00～16：00

講師：不二陽子先生（シュタイナー学園教員）

場所：十日市場校舎

参加費：2,500円（NPO会員2,000円）

ご寄付ありがとうございます（10/19～11/11）  
（順不同・敬称略）

星の金貨、倉内美代子、保育グループ、加藤洋子

7/1～31 よこはま夢ファンドを通し～ 三角忠

～皆様からのご寄付は大切に使用させていただきます～

## NPO 会員・NL メンバー案内

正会員・賛助会員：12,000円

ニューズレターメンバー：2,000円

継続登録、2015年度新規登録、絶賛募集中です。

\* 詳細は事務局へお問い合わせください \*

## ☆ 星の金貨より ☆

これからの季節、アドヴェントに関連する品物が入荷してま  
いります。

どうぞお立ち寄りください。

お問い合わせ

e-mail:hoshi-kinka@freeml.com

ブログ

http://hosinokinka.blog100.fc2.com/



## 「野ばら」ディスカウントキャンペーン

< 2015年11月1日～2016年1月31日まで >

学園の紀要冊子「野ばら」は10年目を迎え、新装いたしました。

新装2冊目となる20号発刊にあたり、最新号20号（または19号）と  
同時購入に限り、バックナンバー（1～18号）を半額にて販売いたします。  
是非この機会にお買い求め下さい。

・新装『野ばら』20号 600円

・バックナンバー 1～18号

19号・20号と同時に買うと50% OFF 1冊200円（何冊でも）

購入のお申し込み、お問い合わせは事務局まで

\* 学園HPからも購入できます \*

## お問合せ、お申込み先

### 横浜シュタイナー学園事務局

Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: gakuen-info@yokohama-steiner.jp

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替： 00260-0-130702

加入者名：特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園

ゆうちょ銀行：店番029 支店名029店（セーラー店）当座013702

横浜シュタイナー学園

Newsletter 第86号

2015年11月24日発行

編集： 広報の会

発行： NPO法人 横浜シュタイナー学園

https://yokohama-steiner.jp

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20

TEL/FAX 045-922-3107

※掲載内容の無断転載をお断りします